

地域コミュニティの未来

話題提供：中塚雅也

神戸大学大学院 農学研究科
食料環境経済学講座 農業農村経営学研究室

■位置づけ

- 2050年（2030年）のコミュニティを見据えて
- 農山村，農業を中心に

自己紹介

- 地域共生型の農業経営**
 (家族農業経営, 集落営農, オーナー制, 直売所・FM, 農家レストラン, GT)
- 地域の人材育成と定着推進**
 (地域おこし協力隊, 「小さな拠点」, 域学連携)
- 地域資源と固有性のマネジメント**
 (農地・水, ため池管理, 在来種保全, 郷土食)

■生まれ/暮らし：大阪和泉↔神戸六甲

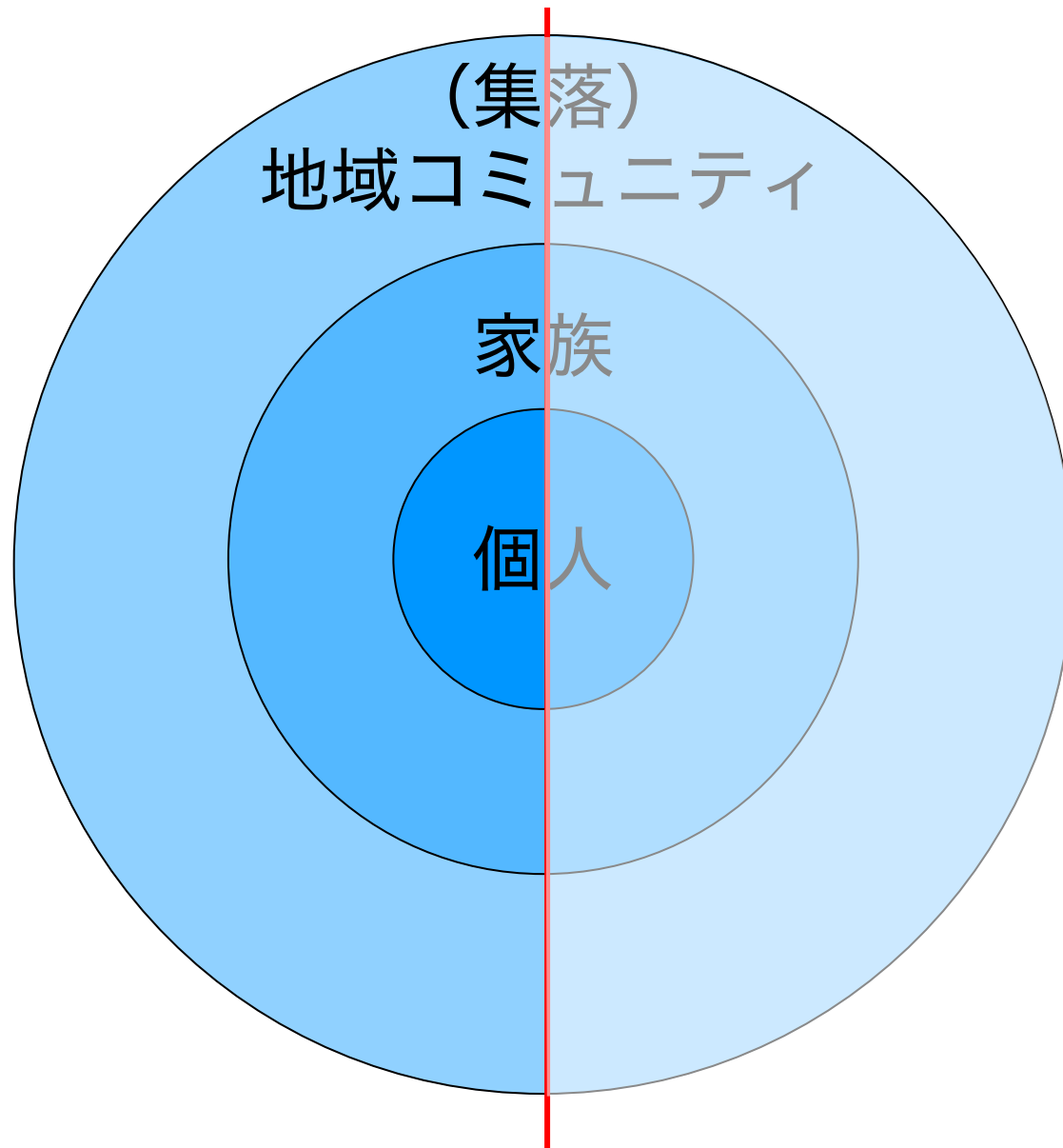
■兵庫県下でのしごと

	神戸・阪神	篠山・丹波	東播磨	淡路	播磨 (佐用)
農業		技術継承 (KM) 後継者育成 集落営農		農業遺産 外国人就労	
流通・サービス・交流	ファーマーズ マーケット 産直ビジネス 農業ボランティア	農泊 里山オーナー			オーナー制度
資源管理		廃校活用 草刈り 地場産業継承	ため池 草刈り	水管理組織	
地域組織	里づくり計画	RMO			集落計画
起業・継業 移住	神戸農村スタートアッププログラム	篠山イノベーションズスクール 地域おこし協力隊	再生エネルギー 山採りビジネス		
拠点づくり・政策	神戸農村ラボ	篠山FS 農村イノベーションラボ 総合計画	東播磨FS		

地域コミュニティの機能（「集落機能」）とは

- 農山村地域におけるコミュニティ機能≡「集落機能」と呼ばれ議論されてきた。
 - 資源管理機能：水田や山林などの地域資源の維持保全に係る機能
 - 生産補完機能：農林水産業等の生産に際しての草刈り，道普請などの相互扶助機能
 - 生活扶助機能：冠婚葬祭など日常生活における相互扶助機能
- これまでの研究&政策課題の中心は， どう維持するか？
政策的には， 直接支払制度（多面的機能， 中山間地域， 環境保全型農業）
- 総務省調査（2019）：
近畿圏の過疎地域の約25%で機能低下・維持困難
兵庫県・・・

集落機能低下の理由



弱体化？

人口減・高齢化
外部化（市場化）
冠婚葬祭…

逆機能

手間（仕事）が多い
不自由
形式主義
→ 「重い」

集落機能の維持と課題

- 集落機能が失われるのは悪いことか？



- 必要性がない，逆機能もある



- 「軽い」コミュニティへ，出来るかぎりビジネス化（CB？）

■課題：

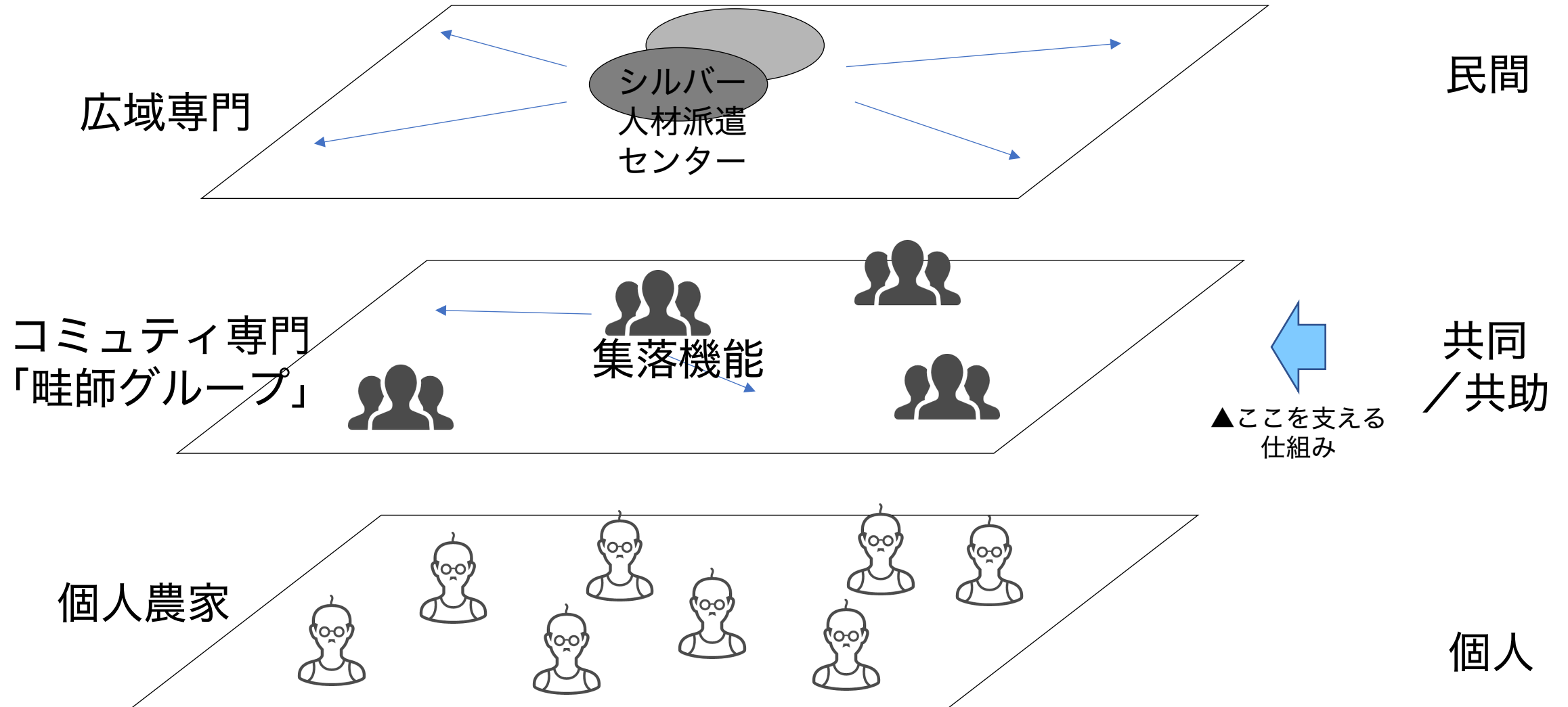
- ①市場化が難しい分野や地域はどうすればよい？
- ②「外注」出来ない人（社会的弱者？）はどうすればよい？

10年後に継続が難しくなる「コミュニティ活動」



写真：2020.9 丹波篠山市（T氏より提供）

地域における重層的な管理システム（草案の場合）



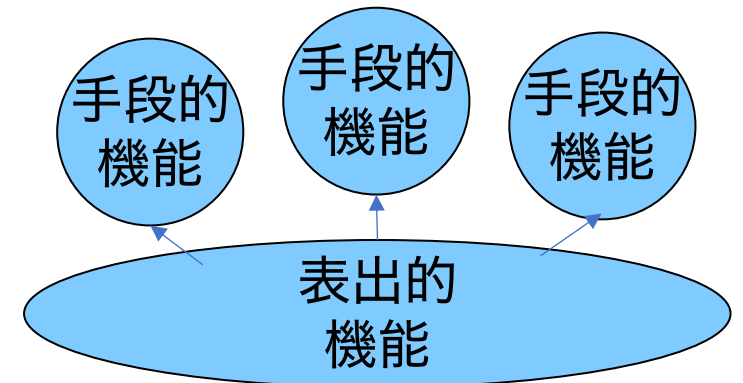
地域コミュニティの手段的-表出的側面

- 「手段」としての地域コミュニティ（集落）の必要性は弱まる

※草刈りは、草を刈る作業（しんどい・強制／義務）と、交流イベント（楽しい・自主的）という両側がある。

- それ自体が目的（表出的側面）≒交流親睦機能，を強化することが，手段的機能発揮のベースとなるのではないか。

→多様な人々が多様に関われる必要性
選択できる必要性



地域コミュニティと地域自治組織

- コミュニティと自治組織は、分けて考えるべき。
- 特に、現在拡がりを見せるRMOは、
共助（自治会）か公助（行政サービス）か。

↓

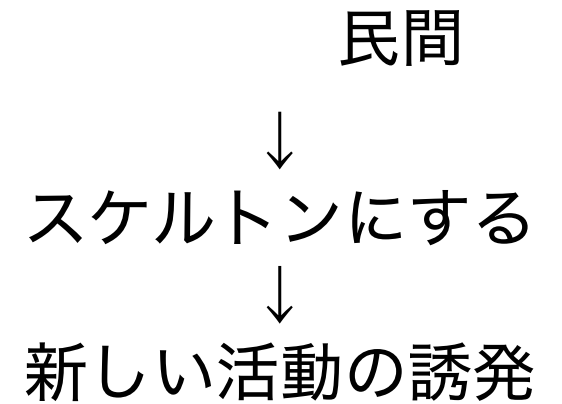
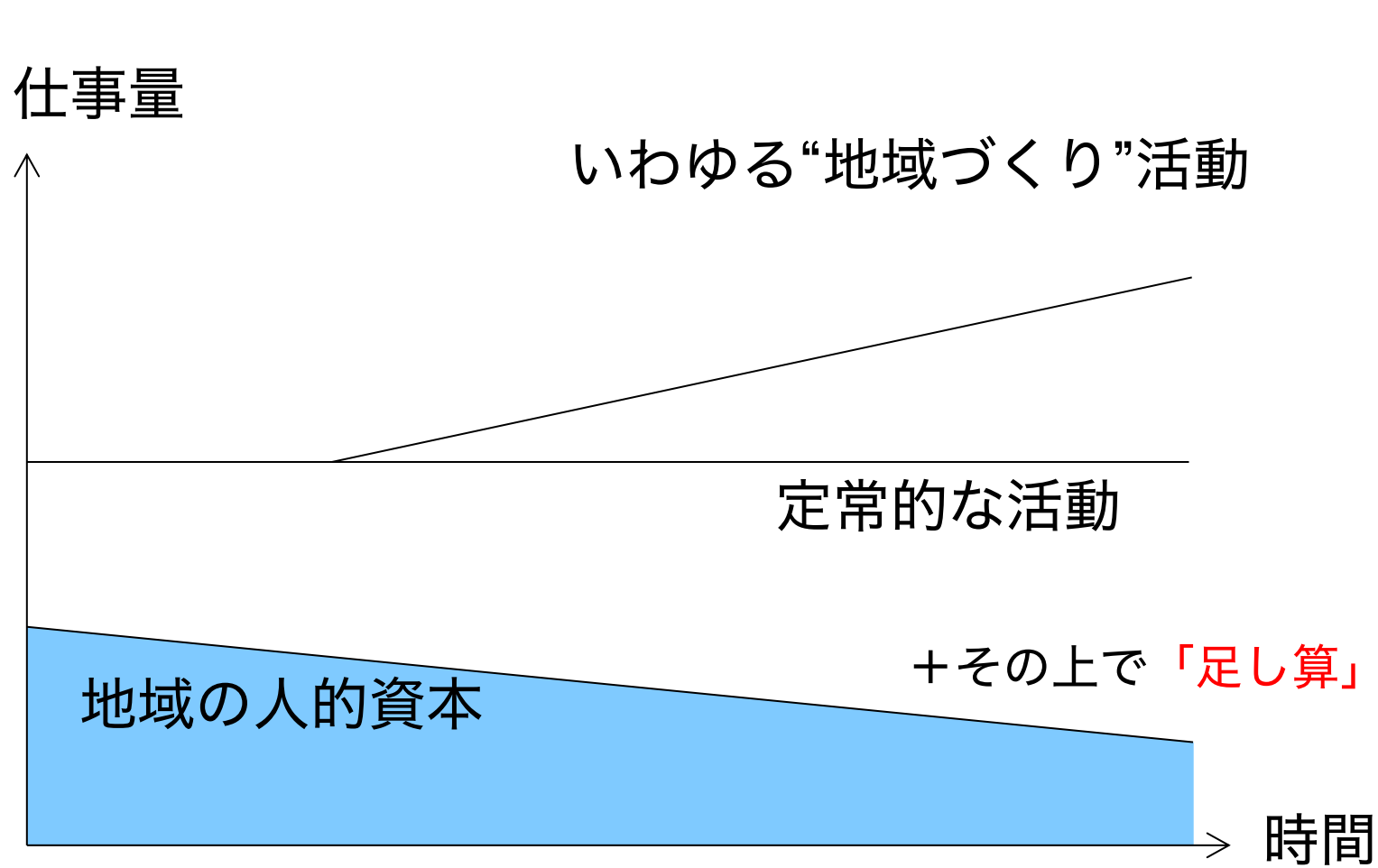
- 現状のRMOは位置づけが不明瞭。共助の自治会の延長（昭和の余力）で運営されていることが多い。←自治の強要
→このままではもたない。

↓

- 新たな地域自治組織のあり方→新たな地域ガバナンス
- ✓行政サービスとして位置づける
- ✓行政=議会=RMOの関係性整理, 支所=公民館=RMOも
- ✓メンバーシップの検討（関係人口→第2住民票）

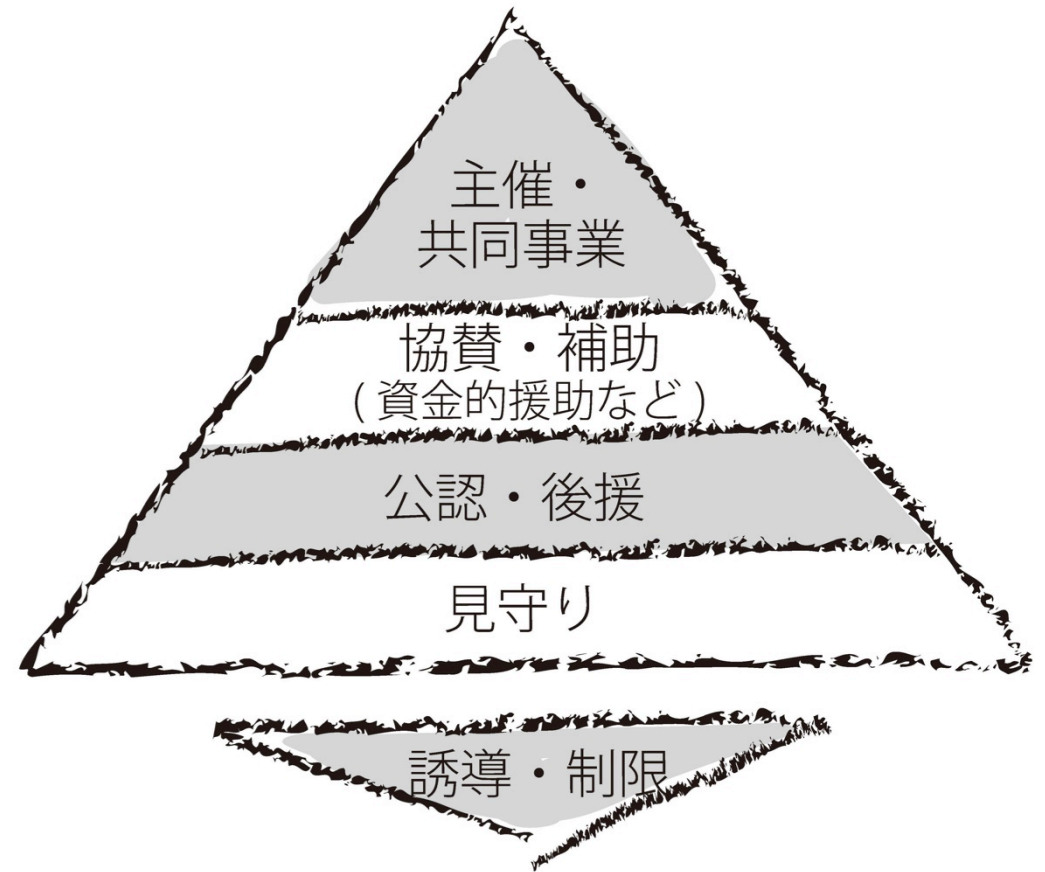
(補足) やることを減らす

- 人口減少下での地域づくりは、“つくる”ことではなく“つぶす”こと



(補足) 自治会やRMOを「軽く」する

- “地域”で全てやらなくていい
- やりたい人がやりたいことを出来る体制（資源提供できる体制）
- やりたい人が，地域資源（ストック）をめちゃくちゃに搾取しないような体制



資料：「福住地区まちづくり計画」2014年より

農業経営から見た地域コミュニティ

- 農業経営で問題になるであろう労働力不足
- 家族農業経営が農業と農村を支えている。 →10年で激減する



“スマート化”が進もうとも

- 臨時雇用労働者（季節労働者，外国人労働者，月単位→年単位），ボランティア的労働者が必要

■課題：

- ①外国人を含む流動的な人々とのコミュニティの形は？
- ②市民が農業に関わるにはどうすればよい？

農業コミュニティの未来

- CSA

 - △都市住民が商品を買うことで支える農業 ←産消提携

 - ◎地域住民が農作業を手伝うことで支える農業

- 農業者が自身の経営を継続するためのコミュニティをつくる
(そのコミュニティは多様で流動的)



- 「農業コミュニティ」の変化が、農村コミュニティのあり方を大きく変える可能性